



丹原 史晶さん

子どものアトリエ七星主宰  
昭和49年8月生まれ・岡山出身・2児の父親  
保育士資格・色彩コーディネーター2級取得、  
(株)ハート&カラー認定 チャイルドアートインストラクター  
ART&THERAPY 色彩心理協会実践会員

「薬にできなくて、つい乱暴な態度に出してしまうこともあるようです。気持ちの表し方が不器用なのですね。しかし、「したい」という気持ちを訴えた言葉を受け止めてくれる大人が一人でもできると、子どもの様子は大きく変わります。」

「なるほどね。自分が思うようにつくっていいよ。どうしたらいいのかわからなくなったら聞いてきて。相談に乗るからね。彼だけに限らず、教室での子どもと私のやり取りは、いつもこんな感じですよ。」

学するまでには、子どもに人の話をきちゃんと聞くということをし付けさせてほしい」という要望を、聞くことがあります。授業をついていく責任を負う先生がそう要望するのは、ごく当たり前だと思います。」

大人の側からのメッセージを容でできる子どもに育てるためには、子どもが欲求していることを子どもに発せさせて、それを大人がしっかりと聞いてあげることが基本だと思ふのです。また、そういう見本を、

# 子どもが、自分の気持ちを言葉にするまで待つ。その言葉を受け止める。それが始まりです。

「したい」という気持ちを子どもが言葉にするのを待ったり促したりすることが大切です。

私の教室では、子どもたちは何を一つくても自由です。私の出番がないほど、どんどんつくくる子どもがいます。その一方で、思案したままじっとしている子どももいます。

「何をしてほしいのか言ってくれないと、先生は手伝いようがないよ。子どもが何かを伝えようとしているのかわかっても、私は先回りしません。ただただしくてもいいから、伝えたいことが話せるようにしていきます。」

何かをつくるとは、自分で考えたことをカタチにしていき、表現することです。「したい」「してほしい」を解決するために、子どもたちには言葉を発してほしいと思います。始めはただしくても、言葉で伝えることを繰り返すことで、子どもの言葉の表現力が育っていきます。

子どもの欲求や気持ちを先回りして何でもやってしまうと、子どもは大人に依存してしまいます。先読みしたことが合っていないと、子どもは混乱し、戸惑うばかりです。まず、子どもが言葉を発すること、子どもの気持ちに寄り添います。コミュニケーションの始まりです。

「したい」という気持ちを受け止めてくれる大人が一人でもできると、子どもの様子が変わります。

「毎日のように、学校でケンカやトラブルがあつて……とお母さんが言われる子どもがいます。通い始めた頃、「今日も学校から呼び出しがあつて」と、こぼされてきました。彼なりに何かを言っていたのですが、それをどう伝えていいのかわからず、分らない様子なのです。それなのに「こうしなさい」という命令や指示ばかりが降り注がれてしまうと、つい反発してしまうのでしよう。反発してしまふ気持ちを言へば、

大人みんなが、指示や命令ばかりじゃないんだということに、子どもが気付きます。反発する以外の付き合い方があることに、子どもが気付きます。そうすると、子どもも気持ちに余裕ができて、落ち着いた様子に変わってきます。

教室に来るようになって、半年が経ちました。学校からの呼び出しは、めっきり減ったそうです。

『人の話が聞ける子ども』に育てるためには、**大人が態度を改めることも必要だと思ふいます。**

小学校の先生から、「小学校に入

子どもの前で見せていくことも大切だと思ふのです。

## 子どものアトリエ七星・アウトライン

クラス 月2回第1・3週クラスと第2・4週クラス  
(※)は2歳児が対象

水曜日	金曜日	土曜日
10:00~70分(※)	10:00~70分(※)	10:00~90分
13:00~90分	14:30~70分(※)	13:00~90分
16:30~90分	16:30~90分	16:00~90分
18:30~90分		

月謝 土曜日・月2回/5000円、  
水曜日もしくは金曜日・月2回/4500円  
水曜日もしくは金曜日・月2回(※)/4000円

問い合わせ TEL 086-284-8402 岡山市栴津958-4